

【今週の相場展望】

東京株式市場

主要指数の戻りに一服感も：“次の動きに備える週”と捉えたい

【図表1】 主要指標（1カ月騰落率）

指数	自2025/4/14 至2025/5/14
PHLX半導体	+23.91%
NASDAQ総合	+13.75%
日経平均株価	+12.19%
TOPIX	+11.04%
S&P500指数	+9.00%
NYダウ平均	+3.76%
米ドル/円	+2.61%
ユーロ/円	+1.29%
長期国債(日)	-1.17%
米国債10Y	-4.16%

※出所：QUICKより当社作成

【図表2】 国内企業の業績見通し

2026年3月期		会社予想（前期比）				
		増減率	下回る	一致	上回る	対象銘柄数
東証プライム	売上高	-1.00%	123社	1社	229社	353社
	営業利益	-5.52%	122社	1社	222社	345社
	純利益	-9.75%	156社	0社	194社	350社
日経平均	売上高	-1.43%	43社	0社	38社	81社
	営業利益	-7.53%	28社	0社	45社	73社
	純利益	-12.32%	34社	0社	46社	80社

※出所：QUICKより当社作成

【図表1】 東京株式市場は日経平均株価、TOPIXともに回復基調となっている。米国株では半導体指数の戻りが大きく、続いてハイテク株比率の高いNASDAQ総合、S&P500指数の順。日銀による政策金利の据え置き決定など、相場をサポートする要因が増えたことも投資家心理にプラスとなった模様で米ドル/円の戻りも見られた。

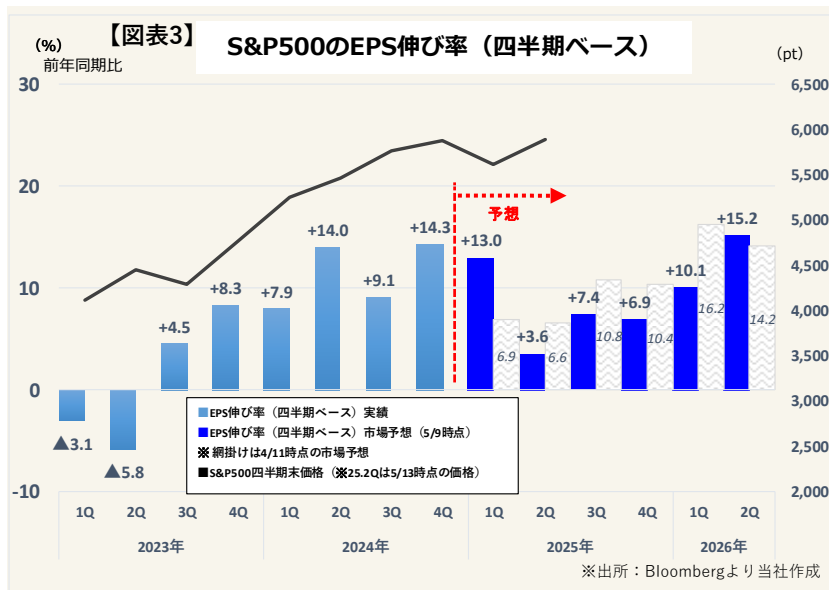
【図表2】 一方、国内企業の3割以上が2026年3月期は減収減益と予想している。トランプ政権の影響など不透明感を完全に織り込めず、依然として業績予想が立てにくい状況のようだ。株価指数の上昇は、期初の控えめな見通しから、将来の上振れ修正期待という面もある。

5/23日（金）：4月の半導体製造装置販売高に注目が集まる

3月の日本製半導体製造装置販売額は前年同月比18.2%増。15カ月連続で前年実績を上回り、3カ月移動平均では前月比4.9%増。2月の確定値は前年同月比29.8%増と報じられた。足下のハイテク関連指数が堅調なだけに、4月の動向は要注目。

米国株式市場

1-3月期の米企業収益は市場予想を上回った。今週はIT業界に注目



2025年1-3月期（1Q）EPS伸び率は、4/11決算発表時の前年同期比+6.9%予想から5/9時点で+13.0%の2ケタ増益にまで修正されている。【図表3】

要因は、トランプ政権の関税政策を考慮し、アナリストが収益予想を事前に下方修正していたためと考えられる。また、関税発動前の想定以上の駆け込み需要も収益の押し上げに寄与したようだ。一方、4-6月期はその反動を考慮し+3.6%の伸び率予想だが、英中との協議内容が明らかとなり、貿易摩擦激化懸念の後退から株式市場ではリスクオン傾向が強まったとみられる。

今週はグーグルの開発者会議が開催予定（5月20日-21日）。新技術への期待感もあり、相場全体に影響を及ぼすIT主力企業への注目が欠かせない週となりそうだ。

（5/15記、門馬）